



Teens ムサカツ2022春」を開催しました！

令和4年3月29日（火）に中高生世代ワークショップ「Teens ムサカツ2022春」を開催しました。当日は、実行委員7名、参加者27名の計34名が参加し、6つのグループに分かれてワークショップを行いました！

1 自己紹介・アイスブレイク

まず初めに名前、年齢、あなたはどっちが良い？(100万円もらえる または特殊能力が使える)について、グループごとに自己紹介しました。次にアイスブレイクとして、グループ対抗戦で【ジェスチャーゲーム】を行いました。実行委員が考えた自己紹介とアイスブレイクで緊張をほぐしました。



2 実行委員による情報提供

実行委員が役割分担をして、どうしたら参加者にわかりやすいか、実行委員会を通して考え、準備してくれました。当日は、クイズや寸劇、スライドなど発表方法も工夫しながらわかりやすく参加者に伝えてくれました。

【発表内容】

- ①Teens ムサカツ2022 春本番の目的について、子どもプラン(武蔵野市の子どもと子育てを応援するための計画)とは？
- ②子どもの権利について
- ③実行委員会でやってきたこと、グループワークで出た意見など



3 職員による情報提供

市職員から下記について説明しました。
○武蔵野市では「子どもの権利条約」に基づき「子どもの権利に関する条例(仮称)」の制定に向けて準備を進めていること
○「子どもにとって大切な権利」「子どもの意見表明・参加」「いじめの防止」「子どもの相談」などの内容を検討していること
○意見募集の際にはぜひ中高生世代にも意見を寄せてほしいこと

4 対話① 「身近な生活の中で『私たちの権利』を考えてみよう

まず、【身のまわりにはどんな権利があるだろう？】ということで、実際の中高生世代の身の回りの生活でどのような権利があるか、「学校」、「家族との生活」、「習い事」、「友達との関係」などのシーンを思い浮かべてグループごとに考えて話し合いました。

やってみよう権利のオークション

右の権利のリストから買いたいと思う権利を一人2つ選び、グループでオークションしました。

権利のリスト

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 安心して生きる権利 | 6 遊ぶ権利 |
| 2 平和に生きる権利 | 7 差別されない権利 |
| 3 自分らしく育つ権利 | 8 学ぶ権利 |
| 4 休む権利 | 9 子どもの権利を知る権利 |
| 5 意見表明し、参加する権利 | |

5 グループ

- その1 子どもたちは安心して、健康に、充実した学校生活を送ることができる(育つ権利)
- その2 まちが子どもが安らげる場所をつくる(守られる権利)
- その3 私たちは大人に意見を言ったり、相談したりできる(参加する権利)
- その4 私たちは夢について、自由に考え決めることができる(参加する権利)
- その5 私たちは助け合っている

グループの言葉を決めるうえで、下記のような大切にしたいキーワードが出てきました。

- ・いじめを見逃さない体制を作る。
- ・子どものときから良い経験を積む。
- ・安らげる場所が欲しい。
- ・子どもの意見を尊重する。夢について、自由に決めることができる。
- ・仲間と協力しあう。



6 グループ

- その1 私たちは教育を受け、地域に居場所を持つことができる(育つ権利)
- その2 互いに尊重し、安心、安全、健康に生きることができる(生きる権利)
- その3 わたしたちは保護され、生きる上で必要なものを求めることができる(守られる権利)
- その4 わたしたちは話し合っって自由に意見を表明することができる(参加する権利)

この4つの言葉に至った背景は下記のとおりです。

- 【その1】学校や家庭以外に、大人や子ども同士で関わることでできる場所があると良い。
- 【その2】身体の安全、健康は前提として大事だが、「心の健康」は「わたしたちらしい毎日」のために何よりも大事だ
- 【その3】子どもは社会的に弱い立場であるから、大人に助けを求めることができる環境が必要。さらに、子どもが自分にとってより良い「守られ方」を自分で選択したい。また、保護者がわが子のより良い関わり方を学ぶ機会を作ってほしい、という大人の視点に立った意見もあがった。
- 【その4】意見表明をするだけでは不十分であって、意見表明の方法を学ぶことやみんなで話し合ったりすることで、考えをブラッシュアップすることができる、その意見を大人が真剣に受け止めてほしい、という子どもの意見が反映されるまでの包括的な視点を大事にしたいという思いが込められている。

市長と喜多委員長(子どもの権利に関する条例検討委員会)から講評

市長「子どもはかけがえのない可能性を秘めた、大切な存在です。子どもの権利があることをみんなが理解し、守られていくように武蔵野市ではきちんと、まちのルールを作っていきます」
喜多委員長「今日はいろいろなことを学ばせていただきました。いただいた多様な意見を、委員会での検討の際にぜひ活かしていきたいと思っております。」



ワーキングスタッフから一言(市職員ワーキングメンバーの感想です♪)

- ◆他のワーキングメンバーや参加した子ども達から刺激を受けることができ、大変勉強になりました。子どもを一人の人間として尊重することと、社会的に保護することのバランスの難しさを感じました。(N・I)
- ◆ムサカツ実行委員や参加者の皆さんが、武蔵野市の未来のために、積極的に参加し意見を述べているのを見て、子どもたちが自由に意見を述べる場を作ることとはとても大切なんだとあらためて実感しました。(S・O)
- ◆子どもの権利について真剣に向き合う実行委員の姿を見て、逆に私の方がたくさんのことを学び刺激をもらいました。(G・S)

- ◆子どもの権利について沢山の貴重な意見を直接聞いたことで、私も市の一職員としてこれからもっと頑張ろうと思いました。本当にありがとうございました。(N・T)
- ◆はじめは私自身も子どもの権利とは具体的に何か知らずに参加をしましたが、子どもたちと共に考え、今の子どもたちが必要としている権利が見えてきたような気がします。今回のワーキングに参加して、改めてどのような権利定める必要があり、必要があるのかを考える時間が必要だと感じました。(M・S)
- ◆日常生活を「権利」という視点で振り返り、思いを言語化することは大人でもなかなか難しいことではないかと思えます。実行委員や参加者の皆さんの、自由で多面的な発言から、私自身、様々な気づきを得ることができました。今回参加してくれた皆さんが、これからも子どもの権利を行使して、自分らしく暮らしていけるよう、市職員の立場として関心を持ち続けていきたいです。(H・M)

おしらせ

Teens ムサカツは、令和4年度も中高生世代メンバーを募集予定です！
引き続き「子どもの権利に関する条例」の検討に向けて、みんなでワイワイ話し合しましょう♪
※詳細は5月15日号市報をご覧ください

権利のオークションで人気のあった権利とその理由を紹介します

安心して生きる権利

・楽しく生きるうえで大切
・すべての大前提で、戦争や暴力、いじめなどがあると、他の権利もすべて守られなくなってしまう

・戦争はいけないことで、平和が一番
・安心して生きる権利や差別されない権利も含めることができる

平和に生きる権利

・無理して生きるのはイヤ
・個性を認められれば差別もされない
・自分の生きている意味を証明するために必要

自分らしく育つ権利

・自分らしく生きるために必要
・学ばないとなにも知らず大変になる
・学ばないと世界が発展しない



学ぶ権利



反対に...

比較的人気のなかった権利は...【子どもの権利を知る権利】でした。しかし、選ばれなかった権利も子どもが生まれながらに持つ「大切」な権利であることをみんなで理解しました。各グループから、様々な視点の意見を聴くことができました！



5 対話② 「様々な人との関わりの中で、私たちらしい毎日を送るために…」

私たちの言葉 ○カ条

子どもの権利が守られ、子どもたちが自分らしい毎日を送ることを武蔵野市は応援していきたいと考えています。今回のワークでは、人とのつながりの中で「私たちらしい毎日」を送るために大切なことを「私たちの言葉○カ条」と題し、グループごとに想いを意見交換しました。

1 グループ

- その1 私たちは幸せを感じることができる(生きる権利)
- その2 私たちはそれぞれの個性を尊重し、多様な生活を送ることができる(育つ権利)
- その3 私たちは戦いに参加せず、平和な生活を送ることができる(守られる権利)
- その4 私たちはそれぞれの意見を共有し尊重しあうことができる(参加する権利)

みんなで出した意見を、4つの権利に分類して考えました。育つ権利に「PCを多用した授業を受けられる」「好きな時に休むことができる」「個性を尊重することができる」の三つの意見が分類されるなど、まとめるのに苦労していた場面もありましたが、何を大切にしたいかみんなで考え発表に備えていました。



2 グループ

- その1 子どもが自由に意思表示できる権利(参加する権利)
- その2 子どもが信頼できる人に助けを求めることができる権利(守られる権利)
- その3 私たちが自分を好きでいることができる権利(生きる権利)
- その4 正しい教育を受け成長できる権利(育つ権利)

メンバーの意見の中で、似たものをまとめてグループ化したところ4つに分けられました。4つの意見を「生きる権利・参加する権利・守られる権利・育つ権利」に当てはまるか話し合った結果、各権利ごとに言葉を振り分けることにしました。

「自分を好きでいれば何をやるにも自信が持てる」という子ども自身に視点を当てた意見や、「一人で抱え込まないで大人に助けを求めることは必要」など、自分以外の人とのつながりも意識した意見が出てきました。

その1~その0

グループで出した意見など

(生きる権利)(育つ権利)(守られる権利)(参加する権利)は、「子どもの権利条約」で定められている子どもにとって大切な4つの原則の権利です。グループの言葉がこの4つの権利の考え方に近いときは、言葉の右横に書いています。

3 グループ

- その1 子どもは大人に守られる(守られる権利)
- その2 子どもは自由に生きられる(生きる権利)
- その3 子どもは学ぶことができる(育つ権利)

この3つの言葉に至った背景は下記のとおりです。

【その1】大人と子どもは対等であり、子どもは大人に頭ごなしに意見を否定されずに自分の意見を尊重され、自由に意見を言うこと(時には大人に意見を言い返すこと)や相談できることが、わたしたちらしい毎日を送るためには必要だという話が出て、そのためには大人に守られることが必要という結論にいたりしました。

【その2】すべての人は戦わず、戦争にさらされずに誰もが自分らしく自由に生きることで毎日楽しく生きることができるという話から、子どもは自由に生きられるという結論にいたりしました。

【その3】学ばなければ知識がつかず、正しい判断ができないことから良いように使われてしまうのではないか(実行委員の情報提供タイムを踏まえて)という意見から学ぶことが大事という結論にいたりしました。



4 グループ

- その1 子どもが知りたいことを学べる
- その2 子どもは自身を尊重される



グループで出した意見は大きく4つの分類(参加する権利、生きる権利、知る権利、個人の尊重)に分けられました。

特に知る権利(政治や性教育など、子どもにあまり教えてもらえないことも教えてほしい)や個人の尊重(自分の触れてほしくない部分について、大人に干渉されたくない。自分の趣味などを否定されたくない。親しい人に否定されるととても傷つく。障害者もみんなと同じように生活できるようにしてほしい)という2つの視点をグループの2か条としました。